

本を読んで聞かせること

「漫画やテレビにばかり夢中になって、ためになる本は少しも読もうとしない」というお母さんの声をよく聞きます。しかし、幼児から漢字に親しんだ子供たちは、その反対です。漫画やテレビよりも、ためになる本をよく読みます。漫画やテレビに見向きもしない子供さえいます。

もともと書物というものは、好奇心を満たすに十分な楽しい内容を持っているものです。それを読まないのは、書物のおもしろさを知らないのか、知ってはいるが、読む力がない(漢字の力がない)のか、そのどちらかです。

の場合は、親が本を読んで聞かせることが大切です。毎日、本を読んでやるのです。子供は飽きることを知りませんから、同じ本を繰り返し繰り返し読んでやることです。

その本は、かな書きの本であってはなりません。それは読んでやるのに骨が折れるからです。注意していても“おばさん”と“おばあさん”とを読み違えます。これでは読み手も疲れるし聞き手も興ざめです。漢字の多い文章は、余裕をもって読むことができます。子供の表情を覗き

ながら読むことができます。だから、幼児に読んで聞かせる本は、漢字の多い本を選んで下さい。

幼児は、毎日、毎晩、聞いていますと、すっかり覚えてしまい、ちょっと読み違えたり、飛ばしたりしますと、すぐに「違う」と言って訂正します。そうなりますと、自分でも大人の真似をして読んでみたくなります。

その時、漢字の方が幼児にも読みやすいので、読書好きの子供になるのです。私の観察によりますと、この時、かなばかりの本だと幼児には読みにくくて、自分で読もうとする気持が弱まり、いつまでも親に読んでもらいたがるようです。だから、出来る限り漢字の多い本を選ぶことが大切です。